

山本体制が3期目へ 広島県鉄構工業会が総会

協同組合広島県鉄構工業会（山本泰徳理事長）は5月25日、広島市南区のホテルニューヒロデンで第45回通常総会を開催した。平成30年度事業計画案、収支予算案など6議案を審議し、すべて原案通り承認。役員改選が行われ、山本体制の3期目がスタートした。

総会には68社が出席



あいさつする山本理事長

（委任状含む）。開会のあいさつで、山本理事長は「ここ数年の業界景気は良好という報告が出てきているが、技術革新などは起きている。需要と供給のバランスが崩れているだけで、良い時期はあっという間に過ぎ去ってしまふ。業界の地位を向上させるためには、設計事務所や元請に認めてもらえる圧倒的な知識をぶつ

けるしかない」と強調。建設業界が取り組む週休2日制にも触れ、「若い人を確保するためには実現しなければならぬ」と。入口部分を魅力あるものに、業界に引っ張ってこないといけない。われわれの業界もこれまで以上に地位向上に努め、若い人を呼び込んでいく」と決意を示した。続いて、来賓として出席した広島県の田辺昌彦副知事が「皆さんの高度な知見と経験を生かし、建築物の安全安心の確保、鉄鋼技術の発展のために尽力してほしい」と祝辞を述べ、組合を激励した。

議事に入ると、29年度事業報告・決算報告、30年度事業計画案・収支予算案など全6議案を審議。議案はすべて承認され、任期満了に伴う役員改選では山本理事長の再選が決まった。

30年度事業計画として、適正な鉄骨価格の獲得を第一とし、重点活動には▽人材の確保・育成▽鉄骨の技術開発を含めた技術力の向上▽青年部の活性化▽ファブの社会的認知度の向上▽支部会活動の一層の充実―を盛り込んだ。

総会後には、「建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事（日本建築学会）」の改訂講習会や懇親会が開かれた。